

癒しと感動の歌、勇気づける

【徳之島】「福をもらす『フーグア(福の子)』の教えを世界へ」。天城町出身のシンガーソングライター順田ひろみさん(神奈川県在住)の里帰りのライブが7~9日であった。母校をはじめ島内の障がい者福祉施設なども精力的にボランティアで訪問。島の祖先たちの教えをさわやかな癒しの歌声で伝え、「福の子」たちやその保護者たちも包み込んで感動させ勇気づけた。

「フーグア(福の子)」 を 世 界 へ

天城出身・順田ひろみさん 里帰りライブ

順田さんは同町天城(め)13歳からは神奈川県出身。けがの治療のため育った。精神療法や

心理療法分野のセラピストとして活躍する傍ら、「癒しの歌声」の素質を見出した恩師の勧めもあり、3年前から作詞作曲も手がけるなど音楽活動を本格

化。郷友会関係のイベント出演などを通じ旋風を巻き起こし始めた。そして今年7月、「フーグア」福をもらす子」など4曲のうち3曲が完全、島口バ

と順田さん。初めの里帰りのライブは7日の母校・天城小を皮切りに、3町の福祉施設なども積極的に慰问した。障がい者支援施設「徳州園」(徳之島町亀徳)には施設利用者のほか、養護学校訪問教育の生徒や保護者たちも駆けつけた。

順田さんは「徳之島には素敵な教えがたくさんあり、共に生きる社会の原点がある。『フーグア』のことを美しい島口で日本中へ、そ

ージョン」の初アルバム『おぼらだれん』を発売した。ふるさと徳之島では古来、「他の子とは様子が違う子や心身の発達の違い、または個性が強く育てにくい子などのことをフーグアと呼ぶ。フーグアには神様がいてくれると言われ、フーグアを大切に育てたならば、その家が栄え、村が栄え」と伝えられている。

して世界に伝えたい」ともアピール。癒しの歌声に引き寄せられた利用者や優しく抱擁しながら歌い、保護者たちには「心を躍らせて生き抜き、福の子たちを育てて欲しい」と呼びかけた。

島外の養護学校中等部に13歳のわが子を進学させている治田文江さん(48)「天城町は「子が寂しがるので週に1、2回、電話で私の声だけを聞かせてあげている。親が泣いたらためとは分かっていても順田さんの歌に涙が止らず、勇気づけられた」。療育研究ひまわりの会」の窪田初枝さん(46)「徳之島町、神奈川県出身でも『フーグア・福の子』の言葉とその意味が分かった。徳のある子・

宝の子として育てていくことに勇気づけられた」と目を輝かせた。来月21日には奄美文化センターである第4回奄美紅白歌合戦にも出場し、癒しと励ましトークと歌を披露する予定という。

忌 尾 島 文学碑 ありし日

念撮は憶選手時間伊の下は「につた。



癒しの歌で「フーグア(福の子)」たちを励ました順田ひろみさん(9日、徳之島町「徳州園」で)

